

# とやま 市P連

富山市PTA連絡協議会広報紙 第78号 2007年12月発行

富山県初の試みとして  
学校選択制がスタートし、  
入学希望申請書が十一月  
に締め切られました。通  
学区域の自由化はPTA  
活動にも大きな影響を及  
ぼします。これを機会に  
義務教育における学校選  
択制の意義について考え  
てみたいと思います。ま  
た氾濫するネット情報は、  
子どもたちにどのような  
影響を及ぼしているでしょ  
うか？本号では、今ホッ  
トな問題となっているこ  
れら二つの話題を中心に  
取り上げて特集します。

特集① 学校選択制の意義とその現状  
通学区域自由化の問題点

特集② 親は知っているか？

子どもたちのサイバー社会



「凧作り」11月11日、古沢小、池多小の交流会にて（本文P8）

インターネット、ケータイ、メール、パソコン：子どもたちは今、いろいろな方法でいろいろな情報に触れることができます。一方で情報の取捨選択や、善悪を判断する力はまだまだ未熟であり、そのギャップが原因となって様々な問題が発生していることが指摘されています。今回は、インターネットやケータイメールを引き金にして小中学校で発生している問題に焦点をあてて、子どもたちはあまりこむ『サイバー社会』について考えてみたいと思います。



# 親は知っているか？ 子どもたちのサイバー社会

今回の特集はまず、去る十月十三日に富山市で開かれた講演会の内容からご紹介いたします。私たち親は、子どもたちのネット社会における実態をどの程度理解しているのでしょうか。若者の間に急速に広がるネット社会を鋭く分析します。

## ネットに殺される子どもたち

富山国際大学教授  
滝沢荘一先生

- ・相次ぐ「よい子」の凶悪犯罪・背後に「ネット社会の落とし穴」。孤独な子の唯一の居場所はネットの中
- ・ケータイは持ち歩けるコンピュータ。ケータイは悪や犯罪の世界とつながっている。学校裏サイトが不登校の原因をつくり、ケータイがいじめの手段に。不十分な情報モラル教育やネット上のエテケット
- ・景気対策の一環として導入されたパソコン。幼稚園児までがパソコン遊び。無免許で子どもが高速道路を運



転するのと同じ危険性。ケータイを持つ最大の理由は、友達ほしさ。ケータイは警戒心や時間・空間の隔たりを消してしまう「魔法の機械」

・ネットの発展で社会・文化・経済活動の利便性が飛躍的に向上。ネット否定ではなく、真の活用こそ必要。しかし野放し状態が続くテレビゲームの危険性。子どもが遊びに行くのはネットの「秘密基地」

・ネット社会の落とし穴の背後にあるもの。社会の激変で消えてしまった「人生のパターン（型）」。

・純性・予知可能性・安全性が消え、若者は危険だらけの社会に。「家庭のホテル化」が進み、コミュニケーションも消えた。

・温かい家庭とコミュニケーションが問題解決への道。人間を作るものは：①身身の人間との対話②読み書き能力③自分の頭で考える

携帯電話は気軽に持ち歩けるパソコンです。若い世代はもはや「ケータイなしでは生きていけない」というほどネット社会にどっぷりと浸かっています。しかしネット社会の陰の部分に潜む危険性にはあまり気づかれていません。有害なサイトの氾濫、生身のコミュニケーションを避け、メールでしかやり取りのできない若者の増加。いま必要なことは子どもたちにネットの落とし穴を理解させ、道具として使いこなす方法を教えることではないか！記者出身教授の渾身の提言です。

教授の講演の内容は以下のホームページで公開されています。

http://www.tuins.ac.jp/jim/kokusai/kouzai/2007satellitoc/entailog.html

### 今時のネット用語

【学校裏サイト】  
中高生や卒業生が、学校のホームページとは別に交流や情報交換を目的に立ち上げたサイトのこと。実名をあげて生徒同士の誹謗中傷が増加中。

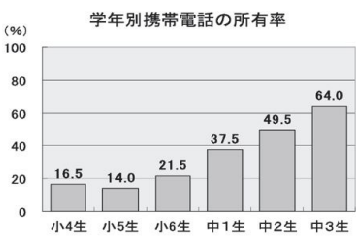
【ブログ】  
ウェブログの略。自分専用の掲示板のようなもので、日記を書く感覚で手軽に作成できるホームページ。他人がコメントを付ける機能などもある。

【プロフィール】  
プロフィールの意味。名前や電話番号、学校名、趣味などの自己紹介サイトを指すこともある。「ブログ」と混用されるが全く別の言葉。

【SNS】  
ソーシャルネットワークイングサービスと呼ばれる、ネット上の会員制ブログ・掲示板サービス。会員が相互に日記などを読むことが可能。

### 携帯電話の普及率は？

子どもたちはどのくらい携帯電話を所有しているのでしょうか。ベネッセ教育開発センターが二〇〇六年末に行った生活実態調査によると、自家用の携帯電話を所有する割合は、小学校四年生では十六・五％で、中学生を追うごとに徐々に増え、中学校三年では六十四％という結果が出ています（左図）。特に中学になると所有率が高くなると共に、親の目が届きにくくなることも指摘されています。さらにこうした現状に伴って、小中学生がトラブルや犯罪に巻き込ま



## 私だけが知らなかった…

～ケータイとインターネットをめぐるトラブルの実例～

- ・授業中に特定の生徒の悪口を、ケータイメールの斉送信で多数の生徒に送り付け、授業終了後その生徒は突然仲間はずれにされた。
- ・学校裏サイトに女子中学生の実名が写真とともに掲載され、「きもい」「死ぬ」「消えて」と書き込まれた。
- ・男子高校生が、同学年の女子生徒の実名を使って本人になりすまし、ブログサイトに卑猥な書き込みをしたり、他の女子生徒の悪口を書いたりしていた。
- ・私立高校1年と市立中学3年が、ブログに悪口を書いたとして中2女子生徒に殴る蹴るの暴行を加え、裸にしてケータイで写真を撮り「ばら撒く」と脅していた。
- ・女子中学生が部活動のポジションをめぐるトラブルになり、ネット掲示板に学校名・実名とともに悪口を書かれて不登校になった。

れる事例も増加しています。今、親としては子どもたちのケータイ事情に注意深く目を向け、子どもたちを理解する努力が必要です。

**子どもたちを守るテクノロジー**

子どもたちをネットトラブルから守るには親の注意が何より重要ですが、それを助ける技術も開発されています。

有害サイトを閲覧させないためのフィルタリング（アクセス制限）は、携帯電話会社が提供するサービスです。これによって出会い系やアダルトなどの特定有害サイトの閲覧ができなくなります。

またアクセス履歴検索サービスを使えば、子どもたちがアクセスしたサイトを知ることができます。メールでは、着信拒否機能などで迷惑メールや有害メールを遮断することもできます。

以上はケータイにおける防衛技術ですが、パソコンにおいてもいろいろな技術が開発されています。

インターネットに接続できる携帯電話を子どもに買い与えている国は日本だけだそう。安易なケータイ文化はやがて日本の将来に影響を与えるかも知れません。我々親は、子どもたちのサイバー社会にもっとも目を向ける必要があります。

# 学校選択制とはなにが

平成二十年度から富山市では学校選択制を中学校に導入します。この学校選択制とはどんな制度なのでしょう。従来、各市町村教育委員会は地域内の子どもが就学すべき小学校または中学校を指定することになっています。その場合、具体的には学校ごとに通学区域を指定する形で行われることが一般的です。つまり、子どもや保護者からみれば、住んでいる場所によって通う学校が決まっていることとなります。

それに対して、学校選択制とは、教育委員会が学校を指定する前に保護者側の意見をある程度で聴取することで、希望者の希望を反映して子どもが通う学校を決める制度です。

この制度には左表に示すようないくつかのパターンがありますが、最近話題になっているのは、市区町村内のどの学校でも自由に選べる(1)の自由選択制です。富山市ではこの自由選択制を導入しています。

- ◆学校選択指導や地域活動、P登
- (1)自由選択制  
市区町村内のすべての学校のうち、希望する学校に就学できる(富山市・金沢市)
  - (2)ブロック選択制  
市区町村をブロックに分け、そのブロック内で自由に学校を選べる(川口市)
  - (3)隣接区域選択制  
隣接する区域内の希望する学校に就学できる(江別市)
  - (4)特認校制  
特定の学校について、通学区域に関係なく就学できる(長岡市)
  - (5)特定地域選択制  
特定地域に居住するものについて、学校選択が認められる(大垣市)
  - (6)その他

# 学校選択制はさほど全国的に広がってはいない

それでは、学校選択制を採用している自治体は、全国にどの程度あるのでしょうか。

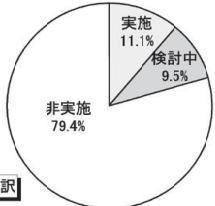
下記のグラフは、平成十六年十一月一日現在の全国の自治体のうち学校選択制を導入した自治体の形態別の数を見たものです。(文部科学省調査結果)

中学校では、千四百四十八の自治体(学校が一つしかない場合を除く)のうち、学校選択制を導入しているのは百六十一自治体で全体の十一・一%です。検討中の自治体は、百三十八自治体で全体の九・五%です。内訳を見ると、「自由選択制」が四十五自治体ですが、「特定地域選択」(四十一自治体)や「隣接校選択」(四十一自治体)も多いことがわかります。

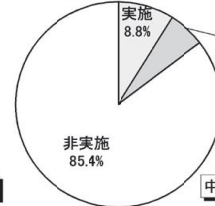
小学校では、導入済みの自治体は八・八%、検討中の自治体は五・八%とまだ少ないようです。

全体的には、学校選択制は着実に増加しているものの、全国的にはまだまだほど広がりをみせてはいないといえます。その理由は、都市部を除けば多数の学校から自由に学校を選ぶような状況にない自治体も多く、導入のメリットが少ないからであろうと思えます。

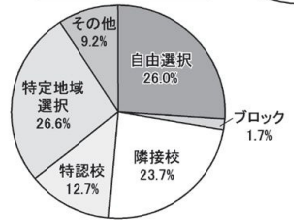
中学校学校選択制の導入状況



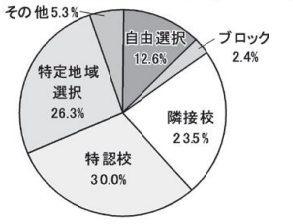
小学校学校選択制の導入状況



中学校学校選択制の内訳



小学校学校選択制の内訳



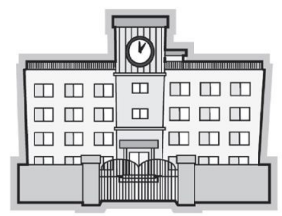
# 学校選択制の意義と今の現状

## 学校選択制これからどうなるの!!

### 学校選択制通学区域の自由化の問題点

富山市教育委員会は十一月二十六日、教育四月から通学区域外の中学校への入学を希望する児童数を発表しました。芝園中、奥田中、堀川中の三校は、希望数が入入枠を上回ったため、抽選を行う事になります。特に芝園中は希望者が九十六人と入入枠三十三人に対して六十三人多く、倍率は二・九倍にも上りました。

抽選は十二月十六日、市教育センターで行われます。入学希望調査は、市立小学校六年生対象に実施されました。



通学区域外からの入学希望者は二百三十人で全体の六・二%でした。市中心部の中学校で通学区域外からの希望者が多い傾向が見られました。

富山市教育委員会は、各校の通学区域内からの入学希望者を公表していません。各校の入学希望者は、国立中や私立中の入試が終わる来年二月中旬以降に固まる見通しです。

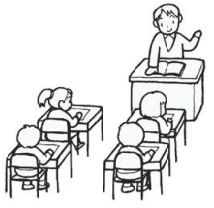
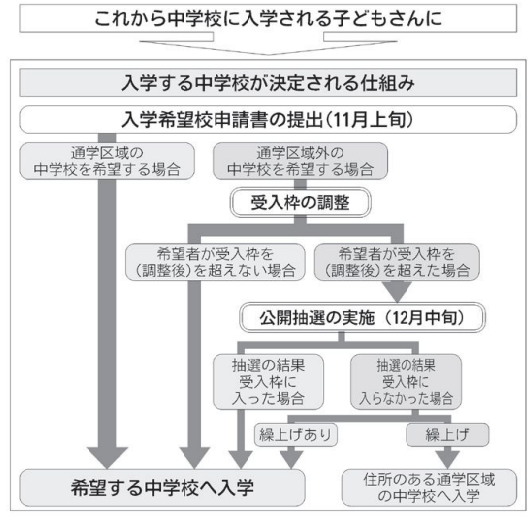
学校選択制による、通学区域の自由化については多数の問題点が指摘されています。まず、選択制によって学校の選択幅が増える利点がある反面、人気のある学校が「進学校」、人気のない学校が「教育困難校」として二極化し、学校間格差が広がるおそれもあることが指摘されています。

山間地の小規模校には、市街地の学校へ生徒が流れると指摘する声もあります。また地域活動等に関しても問題点が指摘されます。つまり同一地域の子どもであっても

も、通学区域が遠いため地域の行事に参加できないなどの弊害が発生する可能性があると言っています。

学校選択制により、子どもたちの通学範囲が広がることも問題となります。登下校時の安全性の点ではなるべく近い

い学校に通わせる方が良いと考えられるからです。「家から遠い」あるいは「保護者同士が知らない」などが理由で活動に参加できないなど、PTA活動が不活発になることも重要な問題として懸念されています。このことは「地域・学校・家庭が連携して子どもたちを育てていく」という、PTA活動の根



幹に関わる問題として捉えられます。

学校選択制が導入され、個々の生徒の個性や学校の特徴が発揮されるような環境を作ることができれば、新しい学校制度の始まりとして期待がもてます。

しかしその一方で、前述のように多くの問題点を内包してはなりません。子どもたちと地域のつながりに十分な注意を払いつながりに新たな注目をほらいたがたいと考えています。学校選択制では子どもと親が話し合っ学校を選ぶふやす絶好の機会とも言えます。

学校選択制について子どもと一緒に考え、将来について真剣に話し合っはいいかが

# 会長情報交換会

## 総務委員会

「豊かな心を持ち、たくましく生きる」  
力をそつて子どもたちを育てるために」  
— PTAのリーダーとしての役割 —



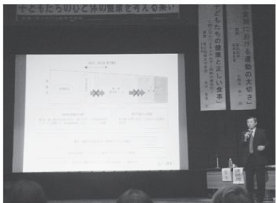
七月十四日県民会館にて会長情報交換会を開催しました。

中学校分科会 22校参加  
問題行動を起こす生徒への対応や六十周年記念事業、資源回収の内容などについて話されました。  
中でも、校内のガラスを割る、自販機を壊す、喫煙するなどの非行への対処の悩みが多く出され、さまざまな取り組みが報告されました。  
また、防犯パトロールでは、隊員募集や道具類を揃えることなどの苦労が報告されました。

富山市P連は単位PTAだけではできないさまざまな事業をおこなっています。  
今回は、その中心となる委員会活動を報告します。

# 子どもたちの心と体の健康を考える集い 厚生委員会

「正しい食事と運動で生活のリズムを」



九月二十九日サンフォルテにて平成十九年度「子どもたちの心と体の健康を考える集い」を開催しました。

小学校分科会 49校参加  
各分科会では、学校選択制の説明についてや「親父の会」の取り組み、安全パトロールとのコミュニケーションなどについて意見交換をしました。  
学校選択については、特に混乱もなく落ち着いている様子が話されています。また、「親父の会」では行事の力持ち部隊としての役割を果たしている様子や新たに執行部の中に組み込んで運営しているという報告などがありました。  
安全・安心や地域とのつながりでは各校区により運営の違いはあるが、地域と協力して取り組みながら力を大事にしている事などが話されました。

第一部講演会  
「児童期における運動の大切さ」  
講師 富山大学医学部教授  
・スポーツ生理学  
小野寺孝一先生  
概要 児童期における体力・運動能力の蓄積（貯金）が、老年期での健康に大きく影響する。この貯金の少ない人が要介護者になる可能性が高い。しかしTVゲームの登場や遊び場の減少、嗜好の多様化、不審者の増加など社会環境の変化から外遊びが減って児童期の運動が減ってきている。親が意識して、体を使う遊びをさせ、子どもたちの運動能力を養うことが重要。幼年期、児童期は身体をコントロールする能力が伸張する時期なので、この能力を伸ばす運動がよい。中高生からは筋力や心肺が良く発達するので、この点を重視した運動がよい。

第二部講演会  
「子どもたちの健康と正しい食事」  
講師 富山短期大学教授  
・栄養学  
桑守豊美先生  
概要 夜更かしして早起きできないと登校までの少ない時間で朝食をとうとうとしても食欲がわかず、結局朝食を抜くことになる。規則正しい生活リズムで、栄養バランスのよい食事を三食しっかりとり、朝食をしっかりとれば脳内の血糖値が高まり、授業に集中できる。脳での低血糖はイライラもまねき、子どもたちの荒れの原因ともなっている。

今回の企画を通じ、それぞれの年代に応じた適切な運動を行い、かつ規則正しい生活や食事が大切であることをあらためて認識しました。

# 富山市P連の一年

## 各委員会活動ダイジェスト

### 教育問題懇談会 教育問題委員会

子育てと親育ちの狭間

「親子の対話を考える」



と親育ちの狭間  
「子育てと親育ちの狭間」

十月二十日大久保ふれあいセンターで「教育問題懇談会」を開き、市内の小、中学校のPTA会員、約二百人が集まり、親子のコミュニケーションについて考えました。  
第一部は、全日本家庭教育研究会富山支部教育対話主事の山下謙治先生を講師に迎え、「子育てと親育ちの狭間」親子の対話について話しました。テーマに講演をいただきました。講演の中では、自身の体験談を交え、「よい人間関係とは、縦の関係ではなく、横

並びの関係だ」「ありがと、うれし」等の「私ことば」で勇気を与えられる」などのアドバイスをいただきました。  
第二部では、会員から集めた親子のコミュニケーションに関する事前アンケートの結果をもとにディスカッションをしました。  
小・中学生の保護者代表の三名が、山下謙治先生にアドバイスを求める形式で、活発に行われました。  
後半には、当日参加者の成功例、失敗例を聞き、皆で親子の対話の重要性、そして大変さを感じ合うことができました。  
最後に、山下先生から、「共働き家庭が多くコミュニケーションの時間をとるのは大変でしょうができるだけ子どもとの共有体験を作ってください」とのこぼれをいただきました。有意義な教育問題懇談会を閉じました。

### 第五回中学生懇談会 生涯学習委員会

「良質な人間関係構築のための「コミュニケーション」



十一月十一日東部中学校にて中学生懇談会を開催しました。思春期の中学生が抱える悩み事をテーマにし、率直に意見を交換し今後に生かしてもらうための企画です。市内二十七校の中学一年〜三年生まで百八名、PTAと富山大学関係者も合わせて約二百名の参加がありました。富山大学人間発達学部の稲垣広顕准教授の基調講演が行われました。それを踏まえ、参加した中学生が九班に分かれ、富大稲垣研究室の学生の進行によりグループ討議を行いました。最後に、全体会として班ごとの発表を行い、稲垣准教授の講評をいただきました。

【基調講演】  
あらゆる人間関係をつくるには「ルール（はじめ）づくり」と「暖かな感情交流」が必要。  
人間と他の動物との違いは、他者と心を分かち合えるかどうかであり人間はそのためにコミュニケーションツール（手段）を開発してきた。コミュニケーションとは言葉による意思や思想の伝達とそれ以外の感情の相互交流を含んだ概念を言う。  
我々は「他者とのトラブル」や「理解されない自分」、「誤解される自分」を繰り返して経験すると、心の健康を損ねていく。良質なコミュニケーションは心を暖かに豊かにし、良質な人間関係を促進していく。

【討議結果】  
相手に話を伝える一番良い手段は、「相手に直接話すこと。それは、表情、感情が伝わりやすいから。メール、携帯電話は連絡手段である。」



【稲垣准教授の講評】  
生徒たちは大人が思っているほどメールや携帯電話を重視していない。直接会って話し合うことが一番大切だと言ってくれて嬉しかった。普段からの会話が大切。友達に対しては腹を割って本音で話してみることも試してほしい。

